

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月13日

協議会名: 二セコ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>二セコバス株式会社</p>	<p>運行系統名:二セコ町全域 町内全域を運行区域とするデ マンド型運行 ・運賃1乗降200円 ・ドア・ツー・ドアサービスでの 運行 ・午前8時から午後7時まで毎日 運行(平日のみ、午前7時台に 一部地域からの路線を運行) ・車両及び台数 ワンボックスタ イプ(10人乗り) 2台</p>	<p>利用者(あるいは利用案内をす る宿泊事業者)向けに多言語で の利用案内を作成し、乗合運 行をするデマンドバスの理解・ 周知を図っている。 宿泊税を活用した冬の周遊バ スについて、町民も無料で利用 可能であり、バスの認知度の向 上と併せ町民利用も増えてい るところ。これにより、冬季の利 用混雑緩和が図られていると 考えているが、一方で冬季間 の利用者減の要因の一つとも 想定している。これらの状況に ついては、デマンドバス単体の 利用状況ではなく、町全体の移 動需要と公共交通供給として 評価すべきであり、特にリゾ ートエリアという特性を有し、冬 季に観光利用による交通需要が 極端に高まる中、デマンドバス と周遊バスが町民の暮らしに 係る交通需要に役立っている ものと評価している。</p>	<p>A 計画どおり運行し、事業は 適切に実施されている。</p>	<p>A 令和7年度計画時の目標に 対する実績は、バス利用者 目標数17,270人に対して、 16,616人。月平均運賃収入 は目標228,500円/月に対 して、222,447円/月、収支 率は、目標10.46%に対 して、9.58%、公的負担額は目標 1,363円/人に対して1,516円 /人となっている。 利用者数は前年比横ばい であったものの、割引対象 利用者(子ども等)の割合が 増加したため運賃収入およ び収支率は下がる結果と なった。収支率については 燃料費など物価高騰による 運行経費の増加も影響。 なお、令和7年6月から新シ ステムに移行しており、運 行効率の改善を図ってい る。併せてキャッシュレス決 裁も導入し、利用者の利便 性向上を図っている。</p>	<p>車両数は運行当初からの2台 体制を維持しているが、特に冬 季間の乗車希望に対し、所要 時間の増等の影響もあり十分 応えきれていない状況が続い ている。これについては周遊バ スの運行と併せて改善を図っ ていく。 新システムによる運行効率改 善を最大化すべく、利用者に対 する乗合運行の理解・奨励の 取組、あるいは周遊バスなど他 の交通との連携を継続してい く。 主に町民向けにWEB予約を開 始する予定であり、より利用者 にとって利便性の高い交通とし て運行していく。</p>

ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

地域の交通について、町の実態に即した長期的で持続可能な確保維持にむけ、利用者・交通事業者・行政等関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化を検討及び環境配慮などが急務の課題となっている。

本事業により、ニセコ町デマンドバス運行実施し、移動弱者が増加している住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと本フィーダー系統との接続により、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物、来町者の交通手段として大きな役割を果たすものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。現状16,601人 → 目標18,280人(R10)、17,270人(R7)
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。現状 219,680 円 → 目標 241,898 円(R10)、228,500円(R7)
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率及び公費負担額を改善させる。経常収支比率:現状 10.05 % → 目標 11.07 % (R10)、10.46% (R7)
公費負担額:現状1,421円/人 → 目標 1,276円/人 (R10)、1,363円/人 (R7)

令和7年度事業概要

- 運行系統名:ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデマンド型運行
- ・運賃1乗降200円
 - ・ドア・ツー・ドアサービスでの運行
 - ・午前8時から午後7時まで毎日運行(平日のみ、午前7時台に一部地域からの路線を運行)
 - ・車両及び台数 ワンボックスタイプ(10人乗り) 2台

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(ニセコ駅、昆布駅)
- ・ニセコバス(株)(町内2路線)
- ・道南バス(株)(町内1路線)
- ・スクールバス(5路線)

協議会開催状況

- 令和7年6月30日 第1回協議会(書面開催)
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画及び運行計画について等
- 令和7年10月8日 第1回協議会専門部会(書面開催)
 - ・冬のニセコ周遊バス運賃案について
- 令和7年10月15日 第2回協議会(書面開催)
 - ・冬のニセコ周遊バスの運行について
 - ・ニセコモデル事業における営業区域外旅客運送について
- 令和8年1月13日 第3回協議会(ハイブリット開催)
 - ・地域公共交通確保維持改善事業評価について

1) プロセス、創意工夫

平成24年10月から従前の町内循環バスに代わる地域公共機関として、デマンドバス(にこっとBUS)を運行している。

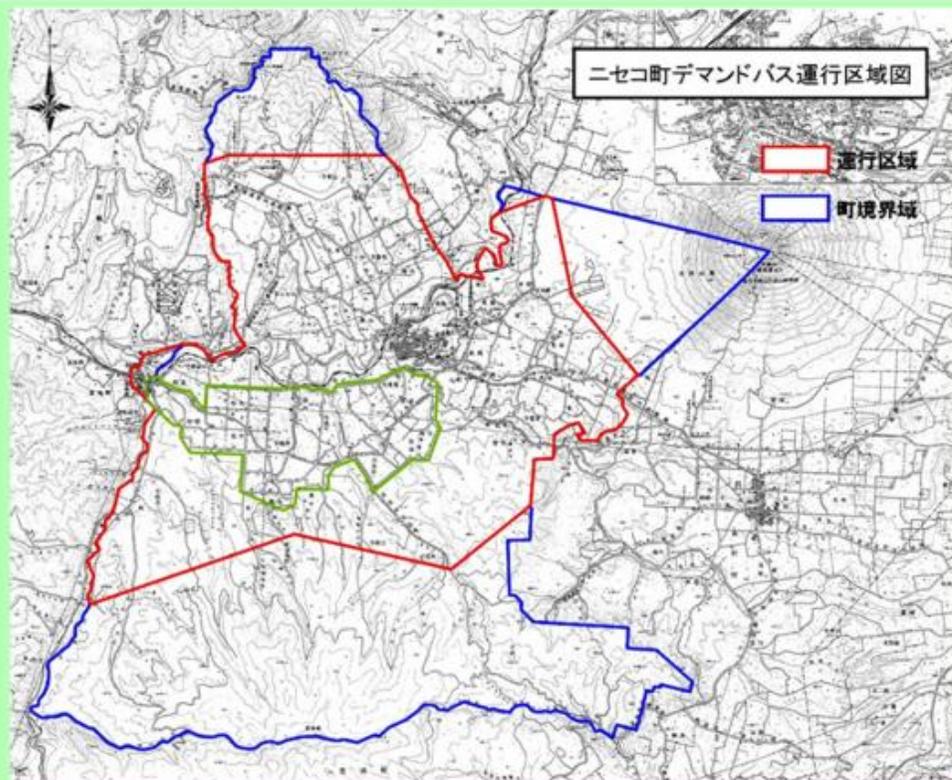
- ・予約電話が繋がらないことに対応するため、話中を改善するガイダンス案内を継続。
- ・利用需要の増や時間集中に対応するため、予約時に乗合運行が増加できるように引き続き配慮。
- ・冬期間のスキー利用などによる混雑緩和のため、市街地とスキー場を結ぶ周遊バスを定時運行。
- ・新システムを導入し運行効率を改善。併せてキャッシュレス決済を導入し利用者利便性向上。

2) 運行系統

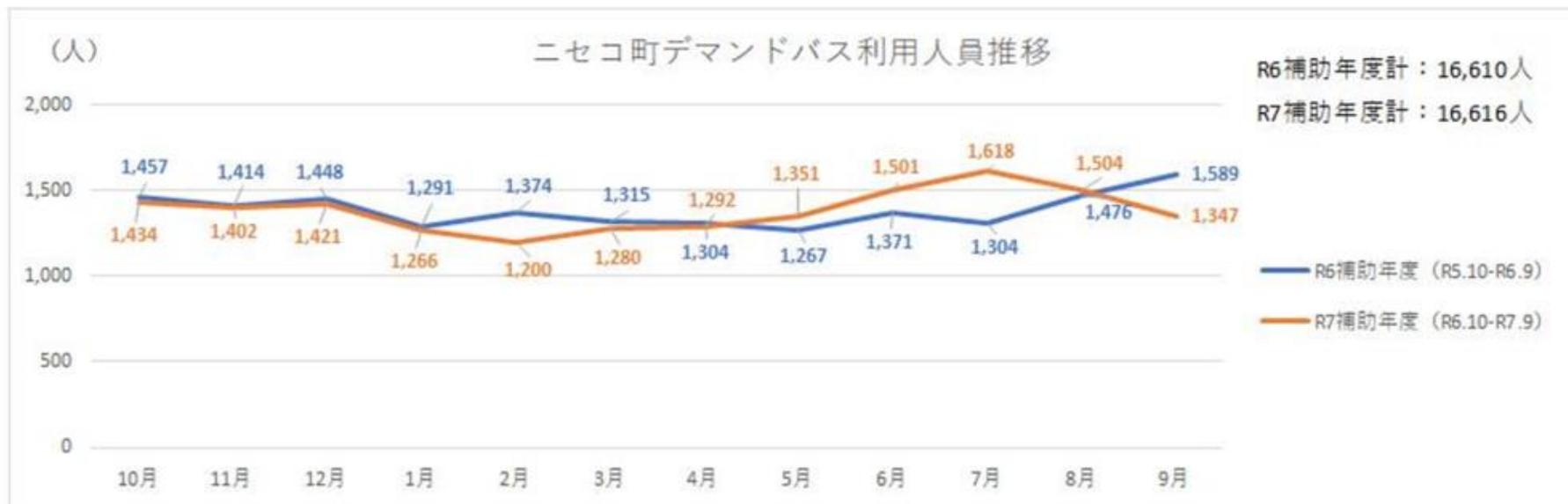
【運行系統】

ニセコ町全域を区域としている。

※運行区域図は右図のとおり



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり運行し、事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

令和7年度計画時の目標に対する実績は、バス利用者目標数17,270人に対して、16,616人。月平均運賃収入は目標228,500円／月に対して、222,447円／月、収支率は、目標10.46%に対して、9.58%、公的負担額は目標1,363円／人に対して、1,516円／人となっている。

利用者数は前年比横ばいであったものの、割引対象利用者(子ども等)の割合が増加したため運賃収入および収支率は下がる結果となった。収支率については燃料費など物価高騰による運行経費の増加も影響。

なお、令和7年6月から新システムに移行しており、運行効率の改善を図っている。併せてキャッシュレス決裁も導入し、利用者の利便性向上を図っている。

7) 事業の今後の改善点

車両数は運行当初からの2台体制を維持しているが、特に冬季間の乗車希望に対し、所要時間の増等の影響もあり十分応えきれていない状況が続いている。これについては周遊バスの運行と併せて改善を図っていく。

新システムによる運行効率改善を最大化すべく、利用者に対する乗合運行の理解・奨励の取組、あるいは周遊バスなど他の交通との連携を継続していく。

主に町民向けにWEB予約を開始する予定であり、より利用者にとって利便性の高い交通として運行していく。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄